

牧羊ひろば



日田福音キリスト教会 教会学校

あなたは覚えているだろうか。牧羊者二〇〇九年Ⅲ巻「牧羊ひろば」で紹介された中津江教会学校を。

●さよなら中津江教会学校

日田福音キリスト教会には二つの教会学校があります。「エンゼルクラブ」と「中津江教会学校」です。九州北部の山間部、熊本県との県境にある旧中津江村の信徒宅で行っていた中津江教会学校。毎水曜日3時から行っていました。全校生約50名の中からいつも5名の子どもたちが出席。ところが二〇一二年中津江小学校は上津江小学校と統合し津江小学校となります。中津江小学校（信徒宅隣）は廃校。さらに今年春、信徒宅の子弟末子が、小学校を卒業し中学校へ。これまで彼と共にCSに励んできた一級下の小学生たちとは別々に。信徒子弟教育を中津江CSの柱の一つにあげていたこともあり、これを

もって中津江教会学校を終了と致しました。

……で話は終わりません。中津江教会学校終了の事で祈っていた時、一つの示唆が与えられました。ヒントになったのは、九州教区で進めようとしている次世代（子ども、中学生、青年）を育てていくための計画、「ネクストジェネレーションプロジェクト」（通称ネクジェネ）です。その特徴は継続的育成。これまでのCS部、中高生BC、青年部の枠を取り払い、ネクジェネとして青年がユースを導き、ユースがキッズを導くような、相互に関連し合い成長することができると目指しています。「そうだ！ 中津江も小学生の教会学校ではなく、中学生も取り入れて、中津江ユースクラブにしよう！」そう導かれました。

ですが問題が一つあります。部活です。「主の山に備えあり」（創世記22・14）。時を同じくして二〇一四年春、津江小学校は、津江中学校と統合し小中一貫校になりました。しかも水曜日には、職員会議のため部活は休み。

ハレルヤ！ こうして、神様の後押しを得て、中津江教会学校は円満終了、新たに中津江ユースクラブがスタートしました。

●中津江ユースクラブ

毎水曜日午後4時～6時。

中津江CSからの変化は二つ。

①聖書を読む。

教会学校の時は、賛美、祈り、ゲーム、み言葉暗唱、お話といったプログラムでした。成長している子どもたちに合わせ、ゲームを止め、その週の聖書の箇所を共に読むことにしました。設題を出し、受け答えしながら、メッセージを進めます。山の子どもたちの頭に、自分で聖書を読んだという記憶が残るように。

集会のあと、手作りおやつをいただくこと、宿題をすることは変わりません。

②本気で野球をする。

教会学校の宿題タイムの後は、サッカーをしていました。ユースクラブになると同時に、新中学生（七年生といます）が野球部に入部したこともあって、廃校になった小学校グラウンドで、軟式野球をしています。野球といっても、全員で5名程ですから、フリーバッティング

状態ですが。私が本気で投げても普通に打ち返されて凹んでいます。子どもたちは、毎週楽しみに野球道具をもって、ユースクラブに集まります。子どもたちの心と体と魂にユースクラブの喜びが染みこむことを願っています。一番楽しんでいるのは私ですが。

●エンゼルクラブ

〈沿革〉

一九六八年日田市内に日本地方伝道団の開拓伝道として日田福音キリスト教会がスタートしました。2人の牧師と2度の転居を経た後、一九九三年日本イエス・クリ



中津江CS 野球

スト教団に加入し、山本敬夫師ご夫妻が赴任され、さらに教会学校の働きが進められました。芋掘りや田舎の旧家を利用したのデイキャンプなど、盛んなCS活動がなされました。毎週土曜日には中高生の集いがもたれて活発さがうかがえます。教会学校で育った3名(後藤健一師、清水順子神学生、宇野真佑美神学生)が献身されたことは教会として大きな喜びです。

二〇〇八年、私(竹崎)が赴任し現在に至っております。

〈概要〉

CS教師は3人。牧師と壮年(小学校校長)と婦人(主婦)です。日曜日午前9時半から10時半まで。礼拝と分級を行っています。

信徒子弟が平均4名出席しています。

〈特別プログラム〉

①チャペルフェスタ

年2回、7月と10月に行います。日曜日午後2時から1時間半ほど、集会とお楽しみタイムをします。数年前までは、出店のような形でお楽しみゲームをしていました。輪投げ、射的、水鉄砲射的、ヨーヨーつり、フラ

フープ、サッカーシュートなどです。ポイント制にしてフラインクボテトやフランクフルト、かき氷等のおやつをプレゼント。

最近では、好評だったクッキー作りやパン作りなどの料理系を行っています。楽しい料理作業をして、お待ちかねの出来上がり待つ時間にメッセージします。この企画こそ子どもはいつも以上に話を聞きます。この企画は、教会学校教師の賜物を活かすというテーマもあって行っています。11月には「ピザ作り」を実施予定です。



チャペルフェスタ パン作り

②夏期キャンプ

かつては、キャンプ場のロッジを借り、教会あけてのファミリーキャンプのように行っていました。現在は参加者数と奉仕者の状況に合わせて、少年の家などの施設が供給される施設を利用するようにしています。公共施設を使う積極的理由は、子弟が誘うお友達が参加してくれるようになり、バイブルキャンプという意味合いを強めたかったからです。CS教師がキャンプ裏方ではなく、子どもたちと共に遊び、学び、共に時間を過ごすことに集中できるようにとの思いがあります。



CSそうめん流し

③花の日慰問

花の日とクリスマスに高齢者施設への慰問をします。施設内を賛美し巡回。3箇所各20分の集いをもちます。賛美と懐かしメロディー。そして元CS教師の教会役員が齒に衣着せず十字架と復活、救い主キリストをまっすぐ伝えます。一般施設内での、宣教つぷりにビツクリです。30年来続けているからこそその信頼関係だと実感します。おじいちゃん、おばあちゃんは幼い子どもたち大好きです。小さければ小さいほど人気があります。高齢者施設への慰問は、子どもたちだからこそできる（喜んでいただける）主の働きだとしみじみ思えます。

（竹崎光則）